

## II. 鳥取県の経済動向（2026年1月5日鳥取県公表）

### 1. 基調判断【緩やかに持ち直しつつある】

一致指数は単月、3か月平均ともに前月比プラス。景気の基調は、緩やかに持ち直しつつある。先行指数は、足元で上向いており、景気の先行きは持ち直しの動きが見込まれる。

景気動向指数（D I ※1）		2025年					
		6月	7月	8月	9月	10月	11月
一致指数※2	原指数	57.1	28.6	35.7	42.9	50.0	
	7ヶ月平均	53.1	51.0	50.0	50.0	49.0	
先行指数※3	原指数	16.7	50.0	50.0	66.7	66.7	
	7ヶ月平均	39.3	34.5	33.3	38.1	38.1	

※1 D I 指数 3か月前と比較して改善した指標の数÷採用された指標の数指数が50を割ると景気が良くないと判断される。

※2 一致指数 有効求人倍率、就職率、所定外労働時間指数、製造工業生産指数、実質百貨店販売額、人件費率、輸入通関実績（7指標）

※3 先行指数 新規求人数、生産財生産指数、日経商品指数、新設住宅着工戸数、民間金融貸出残高、信用保証申込額、不渡手形発生率（7指標）

### 2. 鉱工業生産動向【一部に持ち直しの動きが見られるも、弱めの動き】

食料品・たばこなどが押し上げるも、パルプ・紙・紙加工品、汎用・生産用・業務用機械などが押し下げ、生産指数は3か月ぶりの前月比マイナス。全体の基調としては、一部に持ち直しの動きが見られるも、なお弱めの動き。先行きは、一進一退が見込まれる。

（前月比の単位：％）

鉱工業生産指数		2025年					
		6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	生産指数	108.7	106.7	109.8	110.4	103.6	
	前月比	▲4.1	▲1.8	2.9	0.5	▲6.2	
	出荷指数	112.8	112.5	111.5	111.0	110.4	
	前月比	0.0	▲0.3	▲0.9	▲0.4	▲0.5	
	在庫指数	99.6	96.0	89.6	93.7	92.9	
	前月比	▲2.8	▲3.6	▲6.7	4.6	▲0.9	
電子部品・デバイス	生産指数	108.0	113.6	111.6	108.9	109.6	
	前月比	9.4	5.2	▲1.8	▲2.4	0.6	
電気・情報通信機械	生産指数	131.2	140.3	135.6	133.7	125.1	
	前月比	▲13.0	6.9	▲3.3	▲1.4	▲6.4	
食料品・たばこ	生産指数	101.4	98.3	92.6	95.3	104.7	
	前月比	▲9.5	▲3.1	▲5.8	2.9	9.9	
パルプ・紙・紙加工品	生産指数	126.3	127.2	160.6	172.9	100.2	
	前月比	▲5.1	0.7	26.3	7.7	▲42.0	

### 3. 消費動向【持ち直しの動きに足踏みが見られる】

百貨店、スーパー、家電量販店は前年同月比プラスに振れるも、ホームセンター、乗用車は引き続きマイナス。消費全体としては、持ち直しの動きに足踏みが見られる。先行きも、持ち直しの動きに足踏みが見込まれる。

(単位：百万円、%)

大型小売店販売額		2025年					
		6月	7月	8月	9月	10月	11月
合計	販売額	5,084	5,392	5,611	4,756	4,954	
	前年同月比	▲4.5	0.1	1.9	▲1.7	2.4	
百貨店	販売額	1,141	1,155	1,120	1,035	1,121	
	前年同月比	▲4.5	▲5.0	8.9	▲5.0	5.7	
スーパー	販売額	3,943	4,237	4,491	3,721	3,833	
	前年同月比	▲4.5	1.6	0.2	▲0.7	1.5	

○10月全体：50億円、年同月比 2.4%増（2か月ぶり）

○10月百貨店：11億円、〃 5.7%増（2か月ぶり）

○10月スーパー：38億円、〃 1.5%増（2か月ぶり）

(単位：前年同月比、%)

ホームセンター 家電量販店販売額		2025年					
		6月	7月	8月	9月	10月	11月
合計		▲0.9	▲5.9	▲3.2	▲3.2	5.3	
ホームセンター		▲2.4	▲1.9	▲5.7	▲5.5	▲2.0	
家電量販店		0.6	▲9.7	▲0.2	▲0.8	15.7	

○9月全体：24億円、前年同月比 5.3%増（5ヵ月ぶり）

○9月業態別

・ホームセンター：13億円、〃 2.0%減（9ヵ月連続）

・家電：11億円、〃 15.7%増（4ヵ月ぶり）

(単位：前年同月比、%)

乗用車新車新規 登録台数		2025年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計		1.6	▲11.9	▲4.2	▲2.2	▲3.7	
登録車		▲5.9	▲12.6	▲9.0	▲12.6	▲7.1	
軽自動車		13.4	▲11.0	1.4	14.5	0.9	

○11月全体：1,710台、前年同月比 3.7%減（4ヵ月連続）

・登録車：7.1%減（6ヵ月連続：普通車 15.8%減、小型車 12.2%増）

・軽自動車：0.9%増（3ヵ月連続）

#### 4. 雇用動向【下げ止まりの動き】

新規求人倍率は前月と同水準、有効求人倍率は前月比プラス。所定外労働時間は、全産業前年同月比プラス、製造業は大幅なプラスが続く。基調としては、下げ止まりの動き。先行きは、持ち直しの兆しも。

(単位：倍)

	2025年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新規求人倍率	2.20	2.42	2.17	2.41	2.41	
前月差	▲0.06	0.22	▲0.25	0.24	0.00	
有効求人倍率	1.25	1.27	1.27	1.28	1.30	
前月差	0.00	0.02	0.00	0.01	0.02	

(事業所規模30人以上、2020年=100)

所定外労働	2025年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査産業計 (1人当たり時間)	8.4	8.6	8.4	8.8	9.2	
労働時間指数の 前年同月比 (%)	▲2.3	▲3.4	1.2	0.0	5.7	
うち製造業 (%)	4.1	18.9	10.0	18.0	44.8	

#### 5. 企業倒産動向

今年度上半期の倒産件数（負債額1,000万円以上）は、13件で負債総額は10億3900万円であった。前年度同期比では倒産件数が6件減少、負債総額は14億4600万円減少した。1989年以降の件数で過去10番目に少なく、負債総額は3番目に少ない結果となった。

産業別では運輸業が4件で最多、製造業及びサービス業他が3件、建設業が2件などとなっている。原因別では販売不振が10件で最も多く、放漫経営2件、既往のしわ寄せが1件となっている。2024年度下半期の鳥取県企業倒産は件数が増加傾向で推移していたものの、2025年度上半期は件数、負債総額ともに少ない状況となっている。他地区と異なり、コロナ融資の据置期間が長くなっていたことが抑制の要因の一つとして考えられる。今後は、コロナ融資の返済本格化に伴う資金繰りの悪化や継続する物価高、人手不足などが企業の資金運営に重くのしかかってくる可能性がある。※東京商工リサーチ調べ

#### 6. 消費者物価指数（2025年）

2025年10月の鳥取市の消費者物価指数は、総合で112.8（2020年=100）となり、前年同月比は2.6%の上昇（49カ月連続）、前月比は0.6%の上昇（2カ月連続）となった。

前年同月比の変動に寄与した要因は食料、交通・通信、教養娯楽、光熱・水道などの上昇、教育の下落である。前月比の変動に寄与した要因は食料、光熱・水道、家具・家事用品などの上昇である。

(2020年=100)

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
100.4	100.0	99.3	101.9	105.6	108.5
2025年1月	2月	3月	4月	5月	6月
111.0	111.0	111.1	111.1	111.5	111.3
7月	8月	9月	10月	11月	12月
111.6	111.7	111.5	112.1	112.8	